

1 | 新型コロナウイルス感染症について

1 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルスは、重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)が含まれるコロナウイルスのひとつです。主要な感染経路は、飛沫感染と接触感染であると考えられ、感染すると、高熱や咳などかぜの症状が出て、軽症であったり、無症状の方もいますが、重症化し肺炎に至る場合もあります。

飛沫感染

感染者のくしゃみ、咳、つばなどと一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込み感染すること。

接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りのものに触るとウイルスが付き、他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染すること。

2 新型コロナウイルス感染症への対応について

今後、地域の活動を進めていくに当たって、感染リスクをゼロにすることは難しく、「感染リスクをコントロールしながら、どうすれば実施できるか」という考え方により進めていく必要があります。

また、集落活動センターが実施する事業は様々あり、宿泊事業や食堂など業種ごとに感染防止対策について、業界団体などが作成した業種別のガイドラインが示されています。



症状がなくてもマスク着用

2 | 感染症対策の事例

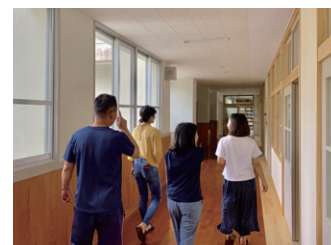
共通事項

- 基本的な知識を習得する（過剰に心配せず、正しく恐れる）
- 感染症対策についてスタッフ内で確認し、書面にして共有する（共通認識を持つ）
- 営業の再開や対策について、地域への周知を必ず行う（不安を払拭し、利用してもらう）

1 | 宿泊事業 ▶ 集落活動センターいしはらの里

地域の情報

宿泊施設：石原コミュニティセンター（旧石原小学校）
【部屋】1F：1部屋、2F：5部屋
【収容人数】1～60名



課題

宿泊施設の顧客受入れの再開に向けて、新型コロナウイルス感染症などへの正しい対策の習得と宿泊や体験受入れにおけるオペレーションの習得

対応策

『感染症対策アドバイザーによる指導・助言（県の支援制度活用）』

- スタッフの健康管理、顧客（単独グループ・複数グループ）の受入手順を確認
- 宿泊客の動線を確認しながら、施設内の消毒薬の設置場所などを確認
- 宿泊施設、食堂の運営、体験メニュー利用時それぞれのチェックリストを作成



2 | 飲食事業 ▶ 集落活動センター「はつせ」

地域の情報

飲食施設：チムジルバン レストラン鷹取
（施設内に低温サウナ施設を併設）
【営業日】火～日曜日 / 11:00～14:00



課題

集落活動センター「はつせ」が営業する韓国風レストランとチムジルバン（韓国風サウナ）における新型コロナウイルス感染症などへの正しい対策の習得

対応策

『感染症対策アドバイザーによる指導・助言（県の支援制度活用）』

- 入口、出口を分け、一方通行にして、密にならない動線に変更
- ゆとりあるレイアウトやロッカーの個別指定などすぐにできる対策から実施
- 食堂、サウナ、加工所などそれぞれの場所の具体的な清掃方法や換気について確認



【感染症対策アドバイザー指導風景】



3 観光事業 ▶ 集落活動センターやなせ

地域の情報

観光施設：魚梁瀬森林鉄道(機関車の乗車、運転体験を実施)
 キャンプ場施設：魚梁瀬森林公園オートキャンプ場
 【設備】 ログハウス5棟、キャンプサイト 芝生(18区画)



課題

施設の特徴に応じた感染症対策と顧客の受け入れ方

対応策

『感染症対策アドバイザーによる指導・助言(県の支援制度活用)』

- ドアノブなど利用者が触れやすい箇所や貸出し備品を定期的に消毒
- キャンプサイトや炊事場への注意喚起の張り紙及び消毒液の設置
- 運転体験時はスタッフ及びお客さんそれぞれがフェイスシールドやマスク、手袋を着用

4 サロン(カフェ)事業 ▶ 姫ノ井集落活動センター「姫の里」

地域の情報

拠点施設：姫ノ井ふるさとセンター
 【営業日】 毎週第2、第4水曜日



課題

「新しい生活様式」に対応したカフェの運営方法と
 事業の継続、地域への周知の方法



対応策

『感染症対策アドバイザーによる指導・助言(県の支援制度活用)』

- スタッフの健康管理、マスクの着用、検温の実施の徹底
- 机の配置を互い違いにして、3密をできるだけ回避
- 参加者名簿の作成・管理、来店時の感染対策を張り紙で周知

3 | 新しい集落活動センターの運営について

今般の新型コロナウイルス感染症だけでなく、災害など予期せぬ事態で地域の活動が制限されることもあります。自分たちのやりたいことと、状況(外部要因)を見極め、課題解決のために手を打つことが大切です。

感染症対策ではウイルスの特徴を正しく理解したうえで、感染のリスクを減らすことが大事です。日頃の活動において、感染拡大防止にしっかり取り組むことで、みんなが安心して活動できる地域を目指しましょう。

感染症対策を実施したうえでの経済活動

- 業種ごとのガイドラインに沿った運営で、可能な限りの対策を実施
- 活動については地域で話し合い、理解と協力を得ることが必要
 - ▶ 検討の過程を十分に地域住民へ周知する。
 - ▶ 3密(密閉、密集、密接)を避け活動を実施するか、感染が発生している地域では中止・延期の判断も。

新しい生活様式に沿った地域での支え合い活動

- 地域でマスク着用、手洗いやうがい、手指消毒の周知・徹底
- 3密を避けた、地域の集会、行事、お祭りの実施
 - ▶ できるだけ人と人の間隔を1~2m以上空ける。
 - ▶ 人数を制限し、熱がある、体調の悪い人の参加は控えてもらう。
 - ▶ 屋内での活動は換気を必ず行う。
 - ▶ 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)を活用する。
 - ▶ 万が一に備えて、いつ誰が集まったかの記録を付ける。
- 地域活動の打ち合わせをオンラインで実施
- 感染症対策を実施したうえでの訪問やテレビ電話などを使った見守り活動を検討

新型感染症に対するガイドライン・支援制度

【高知県「新型コロナウイルス感染症に関する情報」】

- ▶ 高知県庁ホームページ <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVID-19.html>

【新型コロナウイルス感染症に関するQ&A】

- ▶ 厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/qa-jichitai-iryokukan-fukushishisetsu.html#h2_1

【事業種別感染拡大予防ガイドライン】

- ▶ 高知県生活衛生営業指導センターホームページ <http://www.seiei.or.jp/kouchi/covid19.html>